

## 227. 蒲生郡蒲生町横山所在 古墳群調査報告

当古墳群の発掘調査は、去る昭和37年2月、名神高速道路建設に際して行なわれたものである。この調査は、当時名神高速道路建設に当り、滋賀県教育委員会の依頼により、湖東地方を中心に同高速道路沿線の遺跡の分布等の調査に従事されていた江南洋氏により実施されたもので、当時県教育委員会社会教育課の主事であった西田弘が必要な応援を行なった。結果については関係機関に対する報告は行なわれたが、それを公刊されることなく、日本考古学協会の「日本考古学年報」15（昭和37年度）に、西田が「滋賀県蒲生郡天狗山古墳」としてその概略を発表したのみであった。その後、蒲生町教育委員会が昭和60年に刊行された「蒲生町文化財資料集」の「町内遺跡分布調査報告書」において、当遺跡を含めこの付近一帯の古墳群を「天狗前古墳群」として公表された。つづいて、平成2年4月から11月にかけて、同古墳群中の2基について蒲生町教育委員会が発掘調査を行ない、その古墳が所謂竪穴系横口式石室を持つものであったため、大方の注目を集めたのである。今回、昭和37年2月の調査墳について、これを一般に報告することとなり、当時の調査者江南氏の承諾を得て、西田がこの報告を行なうこととなった。なお、蒲生町においては、同町の町史編纂に際し同町古墳時代遺跡のひとつとして当古墳群についても言及される予定であるため、同町関係者とも連絡をとりこの報告を行なった次第である。

まず、発掘調査直後に行なわれた関係者への報告に基づき、それに必要な加除訂正を加え、その概要を報告する。なお、当時は天狗山古墳群の名のもとに報告されていたが、これは現在蒲生町教育委員会により公表されている天狗前古墳群の一部である。

当該報告は次の通りである。

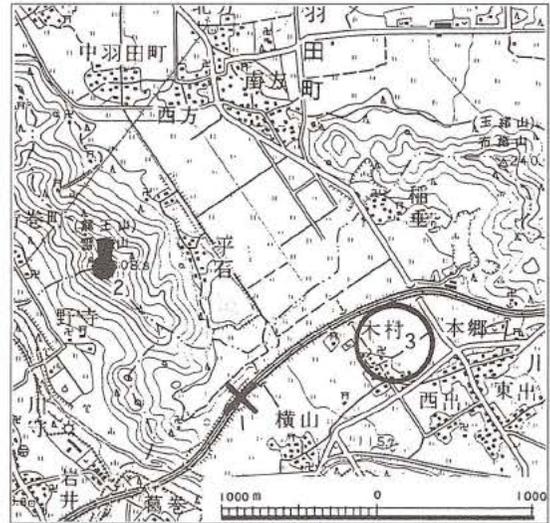
蒲生郡蒲生町横山天狗山古墳群発掘調査概報

調査者 江南洋

位置 滋賀県蒲生郡蒲生町大字横山 雪野山系南端

天狗山南側斜面

(蒲生町横山字天狗山214の39、214の6)

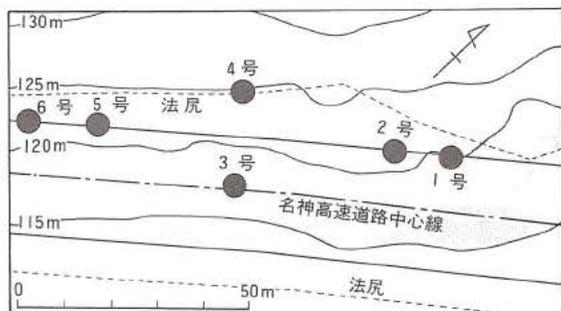


天狗前古墳群位置図

1. 天狗前古墳群 2. 雪野山古墳 3. 木村古墳群
- |      |                             |
|------|-----------------------------|
| 名称   | 天狗山古墳群（仮称）                  |
| 現状   | 横穴式石室を持つ古墳 殆ど崩壊し、又盗掘を受けている。 |
| 発掘理由 | 名神高速道路敷地となるため。              |
| 発掘期間 | 昭和37年2月8日～2月15日             |
| 調査数  | 6基 調査墳について東より1号墳乃至6号墳とする。   |

次に付近の概況について次の如く述べられている。

名神高速道路の用地として消滅することになる古墳は、今回調査した6基である。しかし、天狗山には大小の横穴式石室が、頂上から山麓に至る一帯に全面的に存在し、その数は凡そ20基を下るものではないと考えられる。又、この天狗山を含む雪野山系に存在する古墳の数は、おそらく100を越えるのではないかとみられる。この付近では、北方の平石には平石古墳群があり、東側の木村には、一昨年同志社大学酒詰教授指導の下に発掘調査されたケンサイ塚がある。さらに、その周辺の田の中には現在も点々と林を持つ古墳が存在し、このあたり一帯に大古墳群を形成している。この事は、この付近に素晴らしい上代文化を営んでいた聚落があったものと考えられ、村の古老の口からは、貴重な出土品の数々が伝えられている。



遺跡分布図 (番号は調査古墳番号)  
(秋山嘉男氏作製実測図による)

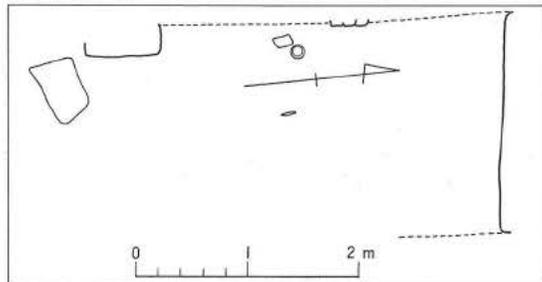
以下に調査の概況として1号墳から6号墳までの状況が述べられているが、これは、別に残されている実測図と共に編集しなおして、改めて述べることにする。なお、これに先立って、該当古墳群の分布図として、当時名神高速道路の当区の建設を請負っていた鹿島建設株式会社蒲生出張所の所長秋山嘉男氏が作製された古墳群の実測図に、必要な加除を行なったものを図示することとする。

#### 第1号墳

完全に崩壊しており、その位置が確認できるだけの状態であった。天井石は勿論のこと、側壁の石組もすべて無く、ただ玄室の奥壁の最下段と、玄室と羨道を区画する袖石が1個残っただけである。この二石によって、玄室の平面は、奥壁部で幅2m、その長さ約3mと推測された。なお、羨道部については、その状況を知ることは不可能であった。副葬の遺物としては、中央部に刀子1口、壁に接してその中央あたりに杯身1個が残っていた。

#### 第2号墳

上部はすべて欠失し、玄室の最下段の石のみが残存しており、玄室底面には礫が敷かれていた。玄室の大きさは、奥壁部で幅約2m、他の玄室と異なり羨道部に向って心持ち狭くなり、その幅は約1.9mとなる。両袖式で、袖部の幅は約70cmと約20cmであった。玄室の長さは、中央部で約3mである。高さは、天井石をはじめ側壁の上部がすべて無くなっているため不明である。羨道部は両側とも一石約60cmが残っただけで、そ



天狗前1号墳石室実測図

の長さは不明である。羨道の幅は約1.1mと思われる。遺物は金環が1個発見されただけである。

#### 第3号墳

玄室の天井石が残り、玄室内への出入りは可能である。天井石は三石で、天井までの高さは約2mであった。玄室の奥壁部での幅は1.6m、羨道に向ってやや幅を広げていて1.8mとなる。両袖式で、袖部の幅は50cmと40cmである。玄室の長さは、中央部で約3.6mである。羨道は入口に向ってやや幅を広げ、最先端で幅約1mとなる。羨道の最奥の天井石一石が残っており、その部分では高さ約80cmである。羨道の現存長は2.8mで、左右の側壁の石組は、共にここで終わっているが、本来ここで終わったのか、或いはもう少し続いたのかは不明である。遺物は全然見なかった。

#### 第4号墳

玄室の天井石が残り、内部は出入りが可能である。玄室の大きさは、奥壁部での幅1.47m、羨道に向けやや幅を広げ1.6mとなる。両袖式で、袖部の幅は40cmと20cmである。長さは中央部で3.5mである。天井石は2枚で、その高さは約1.84mである。羨道部の側壁の一方はほぼ全長を示すものと思われ、その長さ4.4mと相当の長さを示している。これに対し、もう一方は途中で切れており、残存長は2.7mである。羨道の幅は1.1m、高さは約1m余である。これは調査対象墳の中では最も高所に位置していた。遺物は全然残っていなかった。

#### 第5号墳

1、2号墳同様石室上部は完全に崩壊していた。しかも側壁の石材の落石が玄室内に夥しく、調査は困難であった。玄室の大きさは、奥壁部の幅が1.7m、羨道に向って次第に広くなり、最大約2mであった。両袖式で、約30cmと約40cmであった。玄室の長さは中央部で約3.2mである。上部が完全に欠失しているため高さは不明である。羨道部は、左右両側共に一石約90cmが残っていた。羨道の幅は比較的広く、約1.3mであった。遺物は玄室の入口付近の中央部に銀環が1個発見された。土器類は、側壁袖部に杯身及杯蓋各1、脚部の欠失した高杯1があり、また側壁と奥壁に挟まれるように耳の欠損した埴瓶が1個出土した。

#### 第6号墳

露出した横穴式石室墳である。天井石が極めて不安定な状態で、内部の作業が危険なため、かろうじて写真撮影のみを行ない、実測図作製等の石室内作業は見送らざるを得なかった。

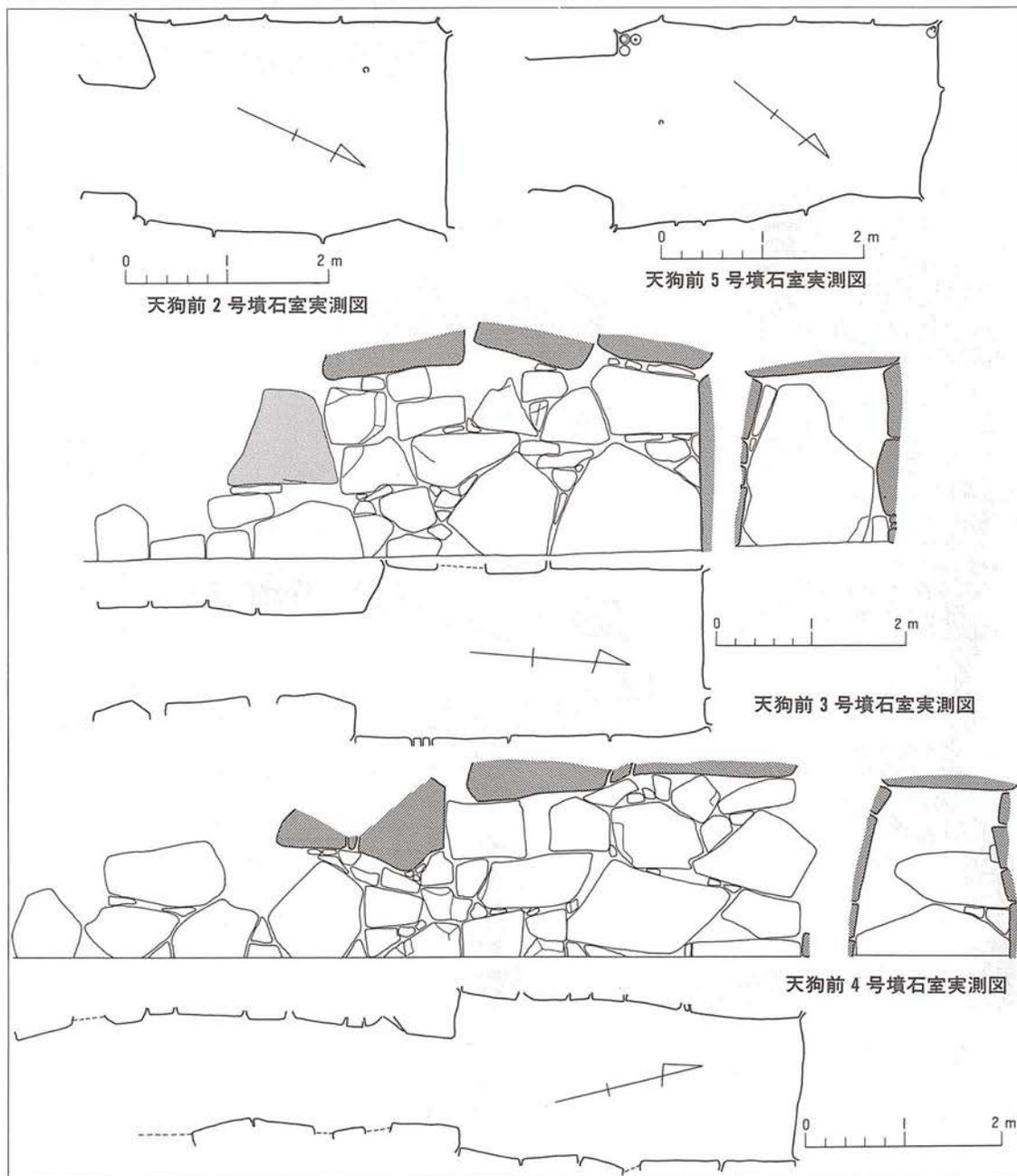
#### 結びにかえて

以上が昭和37年2月に行なわれた調査の結果の報告である。しかし、30余年を経た今日、この古墳群について、2、3の新しい知見を加えるべきことが考えられるので、これを述べてこの報告の結びに代えること

とする。

その1は、昭和37年の発掘調査時においては、普通の横穴式石室を持つ古墳群であると考えられていた。ところが、平成2年の蒲生町教育委員会の調査で、この古墳群が、普通の横穴式石室のほかに、所謂竪穴系横穴式石室墳を含んだ古墳群であることが判明したのである。したがって、石室型式の異なる古墳が混在する古墳群として、被葬者像を考える際には留意しなければならないことが明らかになった。

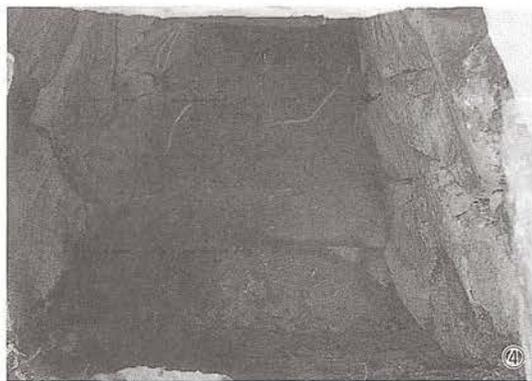
その2は、雪野山古墳の発見である。このことは、雪野山が蒲生内陸部の中央に聳える中心的な山であることを明らかにしたのである。そうして、その南東側平地部の木村古墳群、北西側平地部の供養塚をはじめとする千僧供の古墳群、竜王の平地を挟んで西に連なる鏡山から八重谷に続く丘陵上の岩屋の古墳、八重谷古墳、雨宮古墳等の一連の古墳群があり、これらの中期を中心とした古墳群が、この雪野山を取りまくように並んでいる。これに続く後期群集墳は、雪野山系の



山麓一帯に、このあたりで最も稠密な古墳密度を示している。天狗山から火打谷にかけての古墳群も、このような後期群集墳の一つである。これらは、雪野山頂の雪野山古墳を核とする蒲生内陸部の古墳時代文化圏の形成を示しているのである。

稿を終るに当り、今回の報告を快諾された近江八幡市立資料館長江南洋氏、この古墳群に関しいろいろ御教示をいただいた蒲生町教育委員会の田中浩氏、この報告について御高配をいただいた県文化財保護協会の林博通氏の各氏に感謝の意を表わす次第である。

(西田 弘)



①天狗前2号墳玄室 ②天狗前3号墳近景 ③天狗前3号墳玄室奥壁  
④天狗前4号墳玄室内 ⑤天狗前5号墳遺物出土状況(奥壁)  
⑥天狗前5号墳遺物出土状況(袖部分) ⑦天狗前6号墳玄室内

(天)

顛天地逆